

寄贈図書リスト

Modern Cosmology, S.Bonometto, B5 判, 480p, £75, IoP
 銀河の育ち方, 谷口義明, A5 判, 150p, 2,400 円, 地
 人書館
 元素誕生の謎にせまる(日本語版と英語版), 望月優子
 他, ビデオ, 理化学研究所

火山とクレーターを旅する, 白尾元理, 四六判, 230p,
 1,500 円, 地人書館
 パロマーの巨人望遠鏡(上), 関 正雄, 成相恭二,
 他, 文庫判, 353p, 760 円, 岩波文庫
 パロマーの巨人望遠鏡(下), 関 正雄, 成相恭二,
 他, 文庫判, 323p, 700 円, 岩波文庫
 星空の遊び方, 福江 純 編著, 四六判, 159p, 1,400
 円, 東京書籍

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の
 「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしており
 ますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下
 さい。

e-mail で jim@geppou.asj.or.jp 宛, なお, 原稿も必
 ず Fax で 0422-31-5487 迄お送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目にしたがってご投稿
 下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員(ポスト・人数など), 2. (1) 所属部
 門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職
 務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6.
 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間,
 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意,
 11. その他(待遇など)

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

1. 教授又は助教授 1~2 名
2. 太陽圏環境部門(勤務地: 東山分室)
3. 太陽圏環境部門宇宙線グループでは, 太陽・銀河
 宇宙線の加速や伝播の研究, 放射線炭素による過去
 の太陽活動の研究, ニュージーランドでの暗天体の
 探索を実施しています。今回の人事公募では, 教授
 は, これらの研究テーマあるいは新しい観点で当研
 究所のミッションを発展・推進できる方を, 助教授
 は, ニュージーランドでの暗天体の探索を始め, 現

在の宇宙線グループの活動を積極的に推進できる方
 を求めます。全国共同利用研究所としての任務を十
 分理解され, 大学院理学研究科の協力講座として,
 学生の教育にも熱意のある方を希望します。

5. (1) 平成 15 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期
6. 博士の学位を有すること。
7. (1) 履歴書, (2) 研究歴, (3) 業績リスト, (4)
 主要論文別刷, (5) 研究計画書, (6) 2 名の方から
 の推薦書又は本人について意見を述べられる方 2 名
 の氏名と連絡先を記入した書面。
8. 平成 14 年 12 月 26 日(木)(必着)
9. (1) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
 名古屋大学太陽地球環境研究所長 上出洋介
 (2) ○当該部門の状況等について
 〒464-8601 名古屋市千種区不老町名古屋大学
 太陽地球環境研究所東山分室
 太陽圏環境部門主任 湯田利典
 Tel: 052-789-4319 Fax: 052-789-4313
 E-mail: yuda@stelab.nagoya-u.ac.jp
 ○提出書類について
 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
 名古屋大学太陽地球環境研究所庶務掛
 Tel: 0533-89-5151 ~ 5152
10. 封筒の表に「太陽圏環境部門教官公募書類在中」
 と朱書し, 書留にて郵送願います。
11. 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会
 の選考に基づき, 同運営協議会の意見を求めて, 同教
 授会で決定します。ただし, 該当者がいない場合は
 決定を保留します。

名古屋大学太陽地球環境研究所教官

1. 助手 1 名
2. 総合解析部門(愛知県豊川市)
3. 当部門では, 太陽地球系システム全体の構造とダ
 イナミックスを理解するめ, 太陽から地球までの

エネルギー／物質の流れと変換過程を、データの総合解析、モデリング／シミュレーションによって研究を行っています。

4. 今回の人事公募では、太陽地球系システムの中の物理過程、特に領域間相互作用過程の研究を進めていただける方を求めます。全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解し、当該部門の研究に積極的な役割を果たす方を希望します。
5. 平成15年4月1日以降のできるだけ早い時期
6. 大学院修士課程修了又は同等以上
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書、2名の方からの推薦書又は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面。
8. 2002年12月26日(木) (必着)
9. (1) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 上出洋介
(2) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
総合解析部門主任 品川裕之
Tel: 0533-89-5185
Fax: 0533-89-5090
E-mail: sinagawa@stelab.nagoya-u.ac.jp
10. 封筒に「総合解析部門教官公募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと。
11. 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。

理化学研究所研究員

1. 研究員 1名
2. (1) 宇宙放射線研究室
(2) 埼玉県和光市
3. 高エネルギー宇宙物理学実験
4. 主として飛翔体を用いて宇宙高エネルギー現象の観測的研究を進めつつ、計画中の観測装置(ASTRO-E2 HXD, MAXI など)の開発実験を主導して頂く。
5. (1) 2003年3月1日以降なるべく早い時期。
6. 応募時点で博士号をもち、原則として35歳以下の方。
7. (1) 履歴書(写真貼付)、(2) これまでの研究成果と今後の研究計画(1500字程度)、(3) 論文リスト(レフェリー付と他を区別のこと)、(4) 主要論文2篇の別刷(コピー可)各2部、(5) 理化学研究所理事長あ

ての推薦書または意見書1通。

8. 2002年12月4日(水)
9. (1), (2) 〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1
理化学研究所宇宙放射線研究室
主任研究員 牧島一夫
Tel: 048-467-9333
E-mail: maxima@postman.riken.go.jp
10. 封筒に「研究員応募」と朱書し、簡易書留で送付のこと。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

国立天文台電波天文学分野助手

1. 第95巻5号
2. 河野祐介(国立天文台研究機関研究員)

研究助成

NPO 法人「日本スペースガード協会」による研究助成金の公募について

日本スペースガード協会(略称 JSGA)では「美星スペースガードセンター」において観測研究等を事業として行なっています。当協会が行なう事業のレベル向上を願い、以下応募要項の通り研究助成事業を行なっています。小惑星の軌道決定には2夜以上の精密な位置観測が必要であり、発見後のフォローアップ観測が特に重要であることから、「美星スペースガードセンター」もしくは他の観測者の発見に対するフォローアップ観測研究を行い、積極的に支援して下さる方に対して、「研究助成金」を支給いたします。

採用は2003年度1件とし、その金額は約40万円です。応募者の中から厳正な審査のうえ決定させていただきます。ご希望の方はお申し込み下さい。

1. 提出書類(A4横書きであれば特にフォーマットは指定しません)
 - (1) 具体的に行いたい観測・研究について、および過去の主たる観測研究実績についての説明。(資料添付可)

(2) 観測所の環境 (天候の具合、観測可能時間帯、機材、電話、Fax、ネットワーク等の施設について。)

(3) 連絡先 (氏名、住所、電話、FAX、E-mail)

2. 応募資格

個人、団体 (高校、大学等の研究グループ等) を問いません。

3. 応募書類送付先

〒180-0023 東京都武蔵野市境南町 2-3-14
グローリア初穂武蔵境 609
日本スペースガード協会

4. 応募の締切り

2003年1月31日必着

5. 採用の発表

2003年3月下旬 (郵送にて応募者全員に結果をご連絡致します)

6. 審査

日本スペースガード協会内 研究助成委員会
委員長 吉川 真

7. その他

* 提出いただいた応募書類等は、返却いたしません。

* 研究助成金の受領者には、研究助成期間終了後1ヶ月以内に研究報告書を提出して頂きます。

* 本研究助成金を受けた研究の成果は、本協会活動の一部として、発表することがあります。

* また、当人が学会、学術雑誌、単行本、その他の方法で発表する際は、「(NPO法人)日本スペースガード協会研究助成金」の助成による研究である旨を付記して下さい。

* 研究活動を中止するときは、中止の理由を説明する書類を添えて遅滞なくJSGAに連絡してください。この場合、交付済みの助成金は、原則とし返却するものとします。

8. 問い合わせ先

日本スペースガード協会事務局
Tel / Fax: 0422-30-7650 (火・水・土)
E-mail: spacegd@cc.rim.or.jp

研究会・集会案内

第3回宇宙科学シンポジウム

文部科学省宇宙科学研究所

第3回宇宙科学シンポジウムを下記の要領で開きます。本シンポジウムは宇宙科学ミッション全体に関わることについて理学・工学両者が集まって議論する場です。今回は従来のテーマを引き継ぐと共に、特に、小型衛星・小型飛翔体を使用した宇宙科学 (理学・工学) に関連した講演を募集します。宇宙科学研究所は、平成15年10月の3機関統合後には「宇宙科学本部」(仮称) となり、宇宙科学 (理学・工学) をになうと期待されています。その学術的・創生的な性質から考えて、萌芽的かつ機動性に富むアイデアを、宇宙で実証することの必要性はますます増加していきます。そこで今回は、数kgから数百kgという小型の衛星や小型飛翔体を用いた宇宙科学を議論する場を設け、理学観測・工学技術検証等に関する講演を募ります。もちろん、将来計画等、従来から変わらぬテーマも募集の中心部分としてあります (下記の募集要項をご覧ください)。ふるって御応募下さるようお願いします。

開催日: 平成15年1月9日(木)～10日(金)

開催場所: 宇宙科学研究所 A棟2階大会議室

プログラム概要:

詳細は以下をご覧ください:

<http://www.isas.ac.jp/j/symp/sss3/>

1. 将来計画
2. 衛星基盤技術
3. これまでの衛星等により得られた成果 (ポスターのみ)
4. 小型衛星・小型飛翔体を使用した宇宙科学 (理学・工学) ミッション

講演申込期限: 平成14年11月29日(金) (必着)

講演申込方法: 申込用紙を上記URLから入手し記入のうえ、E-mailあるいはFaxで以下にお送りください。

講演申し込み先:

松原英雄 (宇宙科学研究所 宇宙圏研究系)

E-mail: sss@ir.isas.ac.jp

Fax: 042-786-7202

なおセッション3はすべてポスターとします。他のセッションについては口頭講演・ポスター発表いずれも受け付けますが、口頭講演は時間の関係上必ずしもご希望に添えない場合があることをご承知おき下さい。またプログラム作成にあたって、世話人から講演の依頼・内容の修正・口頭/ポスターの選択等をお願いすることがありますので、ご了承下さい。また一日目の夕方に懇親会を予定しています。

その他

IAU 新会員の募集

天文研連では、新たに国際天文学連合 (IAU) の会員になることを希望される日本人を募集しています。IAU 会員になることは国際的に天文学者として認められることを意味します。会費は無料で、定期的に Information Bulletin と呼ばれる会誌が届くほか、所属する IAU の各委員会での議決権を持つことになります。

今回応募される方については、天文研連で平成 15 年 2 月に審査を行い、研連委員長より同年 7 月の IAU 総会に新会員候補として推薦いたします。推薦された新会員候補は指名委員会での審査を経て、総会での議決により新会員となることが認められます。

会員の資格は、原則として、博士号を有し、天文学関連の学術雑誌に 3 篇以上、研究論文を発表していることです。詳しくは申請用紙をご覧ください。申請用紙は以下の天文研連のホームページから入手できます。

<http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/kenren/tenmon.kenren.html>

申請用紙は両面ありますが、裏面は所属を希望する委員会の一覧表ですので、表面だけ印刷していただいでご記入ください。

なお、申請用紙 (表面) の一番下に、推薦人が記入すべき部分 (proposed by とか date や signature の欄) がありますが、ここは、天文研連委員長が推薦人として署名される部分ですので、空欄のままにしてください。

また、現在 IAU 会員の方で退会を希望される場合は、退会届を下記提出先にお届けください。退会届の書式は特にありません。日本語の簡単なもので結構ですので、

自筆で捺印もしくはサインの上、お送りください。

申請要領は以下のとおりです。

締切：平成 15 年 1 月 20 日

提出先：181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台天文情報公開センター

天文研連幹事 福島登志夫あて

問合せ先：E-mail: Toshio.Fukushima@nao.ac.jp

Tel: 0422-34-3613

会務案内

日本天文学会 2002 年秋季年会報告

2002 年秋季年会は 10 月 7 日(月)～10 月 9 日(水)の 3 日間、宮崎シーガイア(宮崎県宮崎市)にて 8 会場(口頭会場 7、ポスター会場 1)を使って開催された。講演件数は口頭講演が 331 件、ポスター講演が 260 件あり、合計で 591 講演だった。これに加え、ポストドクトライン講演が 4 件、最新情報コーナーが 1 件あった。年会参加者は 693 名だった。開催地理事の山内 誠氏を中心とする宮崎大学の方々の尽力で順調に行われた。企画セッションは従来どおりの方式で「突発天体・突発現象」が行われた他、コンピーナー制を試行した。コンピーナー制として 3 つの企画セッションが開かれた。テーマとともにコンピーナーの方のお名前(敬称略)を示す。

「宇宙流体力学」(柴田一成, 松田卓也)

「公開講座・一般公開」(沢 武文, 加藤万里子)

「高赤方偏移天体の年齢測定」(吉井 譲, 野本憲一)

座長は次の 43 名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す(敬称略)。

10月7日(月)		10月8日(火)		10月9日(水)	
10:00-12:00	14:00-16:00	9:30-11:30	14:00-16:00	9:30-11:30	13:30-15:30
A 山崎典子 (宇宙研)	藤田 裕 (国立天)	西原英治 (ぐんま天文台)	中井直正 (国立天)	西 亮一 (新潟大)	富阪幸治 (国立天)
B 江澤 元 (国立天)	亀谷 収 (国立天)	安田直樹 (国立天)	早野 裕 (国立天)	—	—
C 山下卓也 (国立天)	平野尚美 (台湾:ASIAA)	釜谷秀幸/黒河宏企 (京大)/(京大)	上野 悟 (京大)	下条圭美 (国立天)	横山央明 (国立天)
D 三好 真 (国立天)	瀧崎智佳 (ぐんま天文台)	関谷 実 (九大)	田村元秀 (国立天)	百瀬宗武 (茨城大)	松本倫明 (法政大)
E 吉澤正則 (国立天)	吉川 真/瀬戸直樹 (宇宙研)/(阪大)	横山順一/末松芳法 (阪大)/(国立天)	片ざ宏一 (宇宙研)	高橋忠幸 (宇宙研)	粟木久光 (愛媛大)
F 柴田一成 (京大)	松田卓也 (神戸大)	加藤万里子 (慶応大)	土居 守 (東大)	小林千晶 (MPA)	児玉忠恭 (国立天)
G 北本俊二 (立教大)	加藤太一 (京大)	青木和光 (国立天)	尾中 敬 (東大)	山岡 均 (九大)	長滝重博 (東大)

〈記者会見〉

秋季年会の前日、10月6日15:00から宮崎県宮崎市宮崎シーガイア・ワールドコンベンションセンターサミットで記者会見を行った。以下のトピックスについての解説が行われた。4社の報道機関の出席があった。

(1) 「宇宙をあなたの部屋と教室に」

記者会見発表者：

岡村定矩（東京大学大学院理学系研究科・教授）

安田直樹（国立天文台天文学データ解析計算センター・助手） 講演番号：Y04b

(2) 「“かまきりの眼”が天体の光を捕える

—天体全体の分光を一度に—

記者会見発表者：菅井 肇（京大理・助手）

服部 堯（京大理・博士3年）

河合篤史（京大理・博士1年）

講演番号：V47a, V48a

(3) 30m 基線光赤外干渉計 MIRA-I.2 による天体初フリンジの検出 超高角度分解能天文観測への道

記者会見発表者：

吉澤正則（国立天文台、位置天文天体力学研究系・助教授）

西川 淳（国立天文台、光学赤外線天文学観測システム研究系・助手）

講演番号：V61a（本講演）、V63b（西川、他）、V64b（松田、他）、V65b（鳥居、他）、V66b（久保、他）、V67b（岩下、他）

〈ALMA 特別セッション〉

日本天文学会、日本学術会議天文学研究連絡委員会、同天文学国際共同観測専門委員会、同電波科学研究連絡委員会「分科会、国立天文台電波専門委員会ALMA計画推進小委員会の共同主催により、10月7日18:00～19:00まで開催された。今回はLMSA特別セッションから通算し6回を数えることとなったが、200名収容のA会場は多数の若手研究者を含めて、ほぼ満員の盛況であった。今回は最近の日本参加の具体案をテーマとして、以下のプログラムが進められた。

1. あいさつ（天文研連 池内 了委員長）

2. ALMA計画の現状と今後

（国立天文台台長 海部宣男）

3. アルマ科学諮問会議等の報告

（東京大学助教授 山本 智）

4. 総合討論

（司会：名古屋大学教授 福井康雄）

米欧が予算を獲得して2者アルマ計画が進行中であり、日本の立場を維持するのに多少の困難を感じつつ、3者アルマの2004年実現に向けて関係者が努力していることが報告された。予算要求原案として、アタカ

マ・コンパクトアレイ（ACA）、サブミリ波を主とする3周波数の受信機、高性能相関器、インフラストラクチャーを主とする案が検討されていること、特に開発面で、各大学での努力も含めて著しい進展があることが報告された。今後、予算の減額をできる限り抑えて、当初案に近い金額を得るために、各方面の一層の支援が重要であることが確認された。また、若手参加者からも活発な発言があいついだ。最後に、講演者およびショートコメントをして頂いた方々、並びに多数の参加者の方々と学会関係者に感謝する。世話人は池内 了、長谷川哲夫、福井康雄が務めた。

（福井康雄）

〈法人化特別セッション〉

特別セッションI

「法人化と天文学研究の将来について」日本天文学会、日本学術会議天文学研究連絡委員会主催

2004年4月から国立大学および大学共同機関を法人化するという文部科学省の方針が出され、急ピッチで移行の準備が進められている。その渦中において、法人化が各研究機関での研究教育に及ぼす悪影響が懸念される声があがっているが、特に天文学のような「知の領域」に深く関連する分野の研究にも大きな影響を及ぼす可能性がある。そこで、法人化が進む中で天文学研究の発展を期するために、どのような手を打っておかねばならないか、また法人化の機会に新しい可能性を引きだす手だてを考える、という趣旨で特別セッションが持たれた（司会は、池内 了研連委員長）。

第1部では、共同利用研や国立大学における法人化の進行状況が国立天文台：海部宣男、宇宙科学研究所：松本敏雄、国立大学：岡村定矩、面高俊宏、東大宇宙線研究所（大学付置共同利用研究所）：黒田俊明（以上、敬称略）から報告された。各々異なった状況はあるものの、天文学研究の重要性を訴え、広く国民にアピールすることが重要であること、進み始めている法人化の準備状況を的確に押さえ、天文学研究がより円滑に進められるための体制を確保し、さらに現状では困難な問題が法人化によってどのように解決できるかを考えることの重要性が指摘された。また、科学・技術行政の現場に研究者が専門家として中心的役割を果たすべきことの問題提起もあった。

第2部では、上の講師をパネラーとして、会場からの質問やコメントによる対話形式のパネル討論会が開かれた。科学行政官に研究者がなることの意味、法人化後の大学院生の流動、共同研究の進め方、地方大学における天文学の研究教育の進め方、有能な行政職員の確保など、研究・教育・管理体制・理学の危機などについて活発な議論が展開された。

世話人：池内 了、柴田一成、福島登志夫

（池内 了）

〈公開講演会〉

講演会のタイトルは「『すばる』望遠鏡がとらえた宇宙の姿と天文研究」で、10月5日(日)13:00より宮崎市民プラザオルブライトホールで開催された。田原博人理事長(宇都宮大学学長)の挨拶のあとで、矢野創氏(宇宙科学研究所)の講演「星のかけらから探る太陽系の始まりーしし座流星雨と、星の王子さまのふるさとー」があった。惑星系の誕生のしかたやすばる望遠鏡の敷地内での観測、宇宙塵は地球に大量に降ってきており地上でみつけることができること、小惑星の研究の意義や、小惑星に直接行ってサンプル物質をとってくる MUSES-C 計画などを美しい画像で解説した。

休憩後には、林左絵子氏(国立天文台ハワイ観測所)が「見えてきた『すばる』の誕生ーハワイから探る星・惑星系の生い立ちー」という題で講演した。地球のような軽い惑星をさがす方法や宇宙に知的な生命が存在するのか(ドレイクの式)、すばるの各装置とすぐれた性能の紹介などをいろいろな画像とともに紹介した。望遠鏡の鏡面をきれいに保つ話では、林氏が着ていた防塵服(白いつなぎ)が臨場感をあふれるものに好評であった。

入場者は125名で、それぞれの講演の後には熱心な質問が出て、熱気あふれる雰囲気であった。来場者には、冊子と絵はがきシート(4枚に切り離すとすばると MUSES-C の絵はがきになる)が配られた。

(加藤万里子)

〈通常総会〉

「通常総会報告」(625頁)を参照。

〈懇親会〉

懇親会は10月8日(火)18:00~20:00に、宮崎シーガイア地区内のホテル シェラトングランドゴルフリゾートの国際会議場において開催された。参加者は339名であった。副理事長の松田卓也氏、宮崎コンベンション・ビューロー事務局長の木元克己氏による挨拶のあと、面高俊宏氏の乾杯で始まった。懇談の途中、学会会員である小柴昌俊氏がノーベル物理学賞を受賞したとの報告が入り大いに盛り上がった。懇親会終了前には次回開催地を代表して東北大学の谷口義明氏による挨拶があった。

(山内 誠)

〈保育室〉

保育室は会場と同じ建物の中にある控室(新郎新婦がお色直しに使う和室)を使用した。保育者の派遣は「のんたんの部屋」に依頼した。今回はじめて公開講演会にも保育室を設置した。4日間で5家族、子どものべ13人の利用があった。期間中の補償として、あいおい損保の障害保険を契約した。保育室の実施にあ

たり宮崎大学の山内誠さんにお世話いただいたことを感謝する。

(加藤万里子)

(年会実行委員長:茂山俊和)

【理事会議事録】

日時:2002年10月7日(月)

12時00分~13時00分

場所:ワールドコンベンションセンターサミット会議室

出席者:田原,松田,郷田,大石,立松,上野,茂山,加藤,松元,黒田,山内 以上11名

欠席者:唐牛,松原,大橋,吉田 以上4名

有効委任状提出者:松原,大橋,吉田 以上3名

他に、東北大学谷口氏、愛媛大学粟木氏、名古屋大学福井氏、及び、東條事務長が参加した。

議事に先立ち、署名人を選出した

議長:田原博人

署名人:郷田直輝,大石雅寿

報告

1. 前回議事録の確認(資料1)

郷田理事より前回(2002年6月29日)の理事会議事録が報告され、原案通り承認された。

2. 2002年秋季年会について

茂山理事が報告を行なった。参加者集計はJTBが行なっている。懇親会への申し込み数は260を超えている。PDLは4件、ポスター発表も250件を超えている。記者会見は3件、4社の参加であった。自己推薦方式が有効だったかどうかは現状では明白ではない。一般社会に研究成果を分かりやすく伝えるという記者発表の社会的意味、方法論などについては1月の理事会でさらに議論することとした。

3. 天文学会の特定公益増進法人化について(資料2)

郷田理事が、特定公益増進法人に天文学会がなれるかどうか調査した結果に基づき、天文学会はその対象とならないことを報告した。このため、天文学会への寄付があった場合でも、寄付者が寄付金額を課税対象から控除できないことが明らかになった。

4. その他

(1) 日本十進分類法に関する要望書への回答について(資料3)

郷田理事が、天文学会から要望していた事項を次

期改訂作業での検討課題とする旨の回答が、(社)日本図書館協会分類委員会からあったことを紹介した。

(2) 特許法第 30 条に基づく学術団体指定について

郷田理事が報告を行なった。上記学術団体への指定を申請し承認されると、天文学会で発表しても特許申請の対象となる。申請をしておかないと特許申請ができなくなる。天文学会は申請資格があるので手続きを進める。

(3) プレイン社の社名変更について

PASJ の出版を行なっているプレイン社がページエンタープライゼス社との合併により社名変更することとなったが業務遂行への影響は全くないと報告を郷田理事が大橋理事の代理で行なった。

議 題

1. 新入会員の承認 (資料 4)

2002 年 6 月 29 日から 10 月 7 日までの間の新入会員リストを郷田理事が紹介し、15 名の正会員、6 名の準会員及び 1 団体の団体会員の入会が承認された。また退会会員、移籍会員等の報告も行われた。

2. 2003 年春季年会 (仙台) について

東北大学の谷口氏が準備状況について報告した。3 月 24 日(月)～26 日(水)に年会を川内北キャンパスで開催する。公開講演会は 3 月 23 日(日)に仙台市との共催で行なわれる。仙台観光コンベンションセンターから補助が出る。

3. 2003 年秋季年会 (愛媛) について

愛媛大学の栗木氏が準備状況について報告した。9 月 24 日(水)に記者発表。25 日(木)～27 日(土)に年会を行い、28 日(日)に公開講演会を予定している。コンベンション助成金については会議の 3 ヶ月前までに申請する必要がある。

4. 記念出版事業と編集委員会に関する内規案について (資料 5)

天文学会 100 周年記念出版事業に関わる内規案を郷田理事が説明した。質疑応答の後、一部修正の上承認され、評議員会に諮問することとした。編集委員会委員長は既に持ち回り理事会にて東京大学の岡村定矩氏に依頼することと決定している。

5. 研究奨励賞内規内定案について (資料 6)

以前から継続審議している内規改訂案の改訂案を郷田理事が説明した。受賞者数を毎年若干名と改訂し、よい研究成果を挙げている若手研究者を広く顕彰することを目的としている。質疑応答の結果、原案通り承認され、評議員会に諮問することとした。これに関連する同賞記念講演会は今後行なわないこととした。賞金は 1 人 10 万円とする。

6. 若手自薦による新賞の制定について

前回の評議員会から検討を依頼された、若手自薦に

よる新賞制定について郷田理事が説明した。同賞制定については否定的な意見が出たが、新理事会で検討を継続してもらうこととなった。

7. 民間財団等の賞の推薦方法について

郷田理事の説明に基づき、賞の推薦数を増やすための議論を行った。推薦委員会を設置する是非、理事長・副理事長が推薦者を発掘することの是非、等について意見交換を行った。さらに今後検討を継続することとした。

8. 学会各賞の英文名について (資料 7)

郷田理事が学会各賞の英文名案を説明した。これは海外の研究機関のポストに応募するなどの際に必要なものであり、評議員会から検討を依頼されている。意見は郷田理事宛てに提出することとなった。

9. その他

(1) ALMA 計画の早期実現に関する文部科学大臣宛ての要望書について (資料 10)

名古屋大学福井氏(国立天文台 ALMA 計画推進小委員会委員長)が天文学会から文部科学大臣宛てに上記要望書を提出して欲しいとの趣旨説明を行なった。質疑応答の結果、評議員会での承認を経た後要望書を提出することとなった。

(2) 次回理事会は 2003 年 1 月 11 日(土)に新旧合同理事会として開催することを決定した。

2002 年 10 月 23 日

議長 田原博人 印
署名人 郷田直輝 印
署名人 大石雅寿 印

【評議員会議事録】

日 時：2002年10月8日(火)
12時00分～13時00分

場 所：ワールドコンベンションセンターサミット
会議室

出席者：岡村，海部，加藤，柴田，千田，高橋，福井，
舞原，吉井，家，池内，石黒，高津，谷口，野本，
松田，渡部 以上17名

欠席者：井上，太田，小山，須藤，高原，牧島，木下，
小杉，佐藤(勝)，佐藤(修)，中村，長谷川，林
以上13名

有効委任状提出者：井上，太田，須藤，高原，牧島，
木下，小杉，佐藤(勝) 以上8名

他に理事会から郷田理事，大石理事，立松理事，茂山
理事，また，東條事務長と国立天文台中井氏が出席した。
議事に先立ち，議長に吉井 謙氏を，
署名人に柴田一成氏と石黒正人氏を選出した。

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

郷田理事から前回議事録が報告され，一部修正の上
承認された。

2. 2002年秋季年会について

茂山理事より2002年秋季年会に関して報告があっ
た。講演申込数は591件，ポスター発表の件数は260
件，PDLは4件，最新情報コーナーは1件，懇親会
申し込みが286名である。記者会見は3件，4社であ
った。今回初めて試行したコンビナー制は次回も試
行することを予定している。天文研連と天文学会が共
催で特別セッションを2件行った(「法人化と天文学
研究の将来」と「ALMA」)。次回(2003年春季)年
会より非会員の基本登録料，講演登録料，追加講演登
録料の改訂を行う。

これに関連して，記事として取り上げられるため
には記者発表トピックスの選定をどのような考えで行
うべきかについて意見交換を行い，理事会に対しさら
に検討を継続するよう依頼することとした。

3. 天文学会の特定公益増進法人化について

郷田理事が，特定公益増進法人に天文学会がなれる
かどうか調査した結果に基づき，天文学会はその対象
とならないことを報告した。このため，天文学会への
寄付があった場合でも，寄付者が寄付金額を課税対象
から控除できないことが明らかになった。

4. 2003年年会(仙台・愛媛)について

春季年会(東北大学)について谷口評議員が準備状
況について報告した。3月24日(月)～26日(水)に年会
を川内北キャンパスで開催する。公開講演会は3月23

日(日)に仙台市との共催で行なわれる。仙台観光コン
ベンションセンターから補助が出る。秋季年会(愛媛
大学)について郷田理事が準備状況について報告した。
9月24日(水)に記者発表。25日(木)～27日(土)に
年会を行い，28日(日)に公開講演会を予定している。

5. その他

(1) 内地留学奨学金受給者の決定

10月7日に選考委員会を開催し，1名に支給す
ることを決定したことを郷田理事が報告した。

(2) 特許法第30条に基づく学術団体指定について

郷田理事が報告を行った。上記学術団体への指定
を申請し承認されると，天文学会で発表しても特許
申請の対象となる。申請をしておかないと特許申請
ができなくなる。天文学会は申請資格があるので手
続きを進める。

(3) 若手自薦による新賞の制定について

前回の評議員会から検討を依頼された，若手自薦
による新賞制定について検討状況を郷田理事が説明
した。さらに検討を継続する。

(4) 民間財団等の賞の推薦方法について

郷田理事から検討中であるとの報告があった。

(5) 学会各賞の英文名について

郷田理事が，2003年1月の評議員会で承認いた
だけよう検討しているとの報告があった。

(6) 通常総会について

本日16時より開催予定であると郷田理事が報告
した。事前投票は262名となっているため，総会は
成立する見込みである。

議 題

1. 記念出版事業と編集委員会に関する内規案につ
いて(資料3)

天文学会100周年記念出版事業に関わる内規案を郷
田理事が説明した。これに関し，出版の趣旨等につ
いて質疑が行われた。海部評議員が目的を達成する
ためにはしっかりと編集委員会を構成するべきであ
るとの意見を述べた。これらの質疑応答の後，内規案
は一部修正の上承認された。

2. 研究奨励賞内規内定案について(資料4)

以前から継続審議している内規改訂案の改訂案を郷
田理事が説明した。受賞者数を毎年若干名と改訂し，
よい研究成果を挙げている若手研究者を広く顕彰す
ることを目的としている。質疑応答の結果，内規案の
うち「若干名」を「3名以内」と修正の上，承認された。
これに関連する同賞記念講演会は1名10分程度に短
縮して実施するよう理事会に依頼することとなった。
賞金は1人10万円とすることを了承した。

3. その他

(1) ALMA計画の早期実現に関する文部科学大臣宛

ての要望書について(資料5)

福井評議員(国立天文台 ALMA 計画推進小委員会委員長)が天文学会から文部科学大臣宛てに上記要望書を提出して欲しい旨の趣旨説明を行った。質疑応答の結果、要望書を提出することとなった。

(2) 学術交流費について

前回の評議員会にて学術交流費が限られている件につき天文・天体物理若手の会に意見を求めたが、高津評議員より若手の会で検討を継続しているとの報告があった。

(3) 次回の評議員会の日程を2003年1月25日(土)と決定した。

2002年10月24日

議長 吉井 譲 印
署名人 柴田一成 印
署名人 石黒正人 印

【通常総会議事録】

開催日時：2002年10月8日(火)

16:00 ~ 17:30

開催場所：ワールドコンベンションセンターサミット
ファウンテンルーム

議長：松田卓也

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。総会出席者数は155名、事前投票総数は281、委任状数は2である。出席者のうちで事前投票をした16名については、事前投票を無効とした。被委任者2名はいずれも出席した。従って有効出席者総数は422名で、定足数(正会員総数1445人の5分の1=289)を満たすことを確認した。次に署名人として面高俊宏氏、北本俊二氏が選出された。

議事の経過および結果

1. 郷田理事が資料に基づき2003-2004年度新役員(理事・監事)候補案の説明を行った(第1号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
2. 郷田理事が資料に基づき2003-2004年度選挙管理委員候補案の説明を行った(第2号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
3. 郷田理事が資料に基づき2003年度事業計画案の説明を行った(第3号議案)。国立天文台の阪本成一氏から「ジュニアセッションの予稿集を事前に配布して欲しい」という希望が出され、学会事務所で

可能かどうか検討することとなった。国立天文台の高野秀路氏が「PASJを毎月発行してほしいがその見通しはどうか」という質問を行い、それに対し大橋理事が「努力はしているが検討を続ける」という回答があった。その後賛否を問い、賛成多数で承認された。

4. 立松理事が資料に基づき2003年度収支予算案の説明を行った(第4号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

5. 郷田理事が資料に基づき評議員選挙施行細則改訂案の説明を行った(第5号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

6. 報告

(1) 非会員の年会登録料の改訂について(資料6)

茂山理事が、2003年度春季年会より非会員の年会の基本登録料を5000円に、講演登録料及び追加講演登録料を5000円にそれぞれ改訂するとの報告を行なった。これに関して国立天文台の福島登志夫氏が「非会員による発表の全体に占める割合はいくらか」という質問があり、茂山理事から「約2割である」との回答があった。

(2) 各種委員会委員名簿について(資料7)

郷田理事が2003-2004年度各種委員会委員候補名簿の報告を行なった。

(3) 第8回IAUアジア太平洋地域会議の報告

国立天文台の福島登志夫氏により第8回IAUアジア太平洋地域会議が成功裏に終わったとの報告が行なわれた。今回は2005年にインドネシアのバリ島で開催される予定である。また同時に、2003年にシドニーで開催されるIAU総会で新IAUメンバーを承認するので、メンバーになりたい人は2003年1月末までに同氏に申し出るようにとの要請があった。申請用紙は天文研連のWebページに貼られる予定である。

(4) その他

松田副理事長より、天文学会からALMA計画早期実現のための要望書を、理事会と評議員会で承認の上、提出することとなったことが報告された。

2002年10月25日

議長 松田卓也 印
署名人 面高俊宏 印
署名人 北本俊二 印

本会へ2002年6月29日から10月7日までの間に入会された方、退会された方をお知らせします。

【新規加入者】

正会員入会者 (15名)

前原裕之 東大・大学院理 (在学)
 中島基樹 日大・大学院 (在学) / 理化学研究所
 浦田裕次 東京工業大・大学院 (在学)
 / 理化学研究所
 高野晴子 立教大・大学院 (在学)
 齋藤晴江 立教大・大学院 (在学)
 小浦寛之 理化学研究所
 太田泰弘 東大・大学院理 (在学)
 本間賢一 東北大・大学院理 (在学)
 三好隆博 広島大・大学院理
 増山博行 山口大・理
 真栄城朝弘 広島大・大学院 (在学)
 加藤和幸 コンセプトハウス (株)
 大浜伸之 東大・大学院理 (在学)
 倉橋映里香 東大・大学院理 (在学)
 平松正顕 東大・理 (在学)

準会員入会者 (6名)

大向純子 大植中学
 渡辺康充 ホテルマネージメント (株)
 中村秀美 けやき屋
 花木哲男 (有) 富山瓦工事店
 林 純一 千葉県在住
 野本憲太郎 ウシオ電機 (株)

移籍準会員 [正→準] (1名)

国森裕生

【退会者】

正会員退会者 (1名)

内田 豊

準会員退会者 (5名)

桜井健郎 川口裕正 三原喜久男
 逆井忠二 山根秋郷

お詫びと訂正

・ 9月号の会務案内の448頁各種委員会名簿のお名前に誤りがありました。訂正してお詫び致します。

誤) 上田暁彦
 正) 上田暁俊

・ 11月号534頁の最終行に一行追加がありました。

訂正してお詫び致します。
 「る。都市化によって夜空が明るくなっている」

編集委員 上野宗孝 (編集長), 伊藤孝士, 上田暁俊, 大石奈緒子, 太田耕司,
 小野智子, 斎藤芳隆, 土橋一仁, 内藤統也, 藤田 裕

平成14年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
 定価700円 (本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 Tel: 0422-31-1359 (事務室) / 0422-31-5488 (月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 E-mail: toukou@geppou.asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子